

# 美術科学習指導案

令和8年6月10日(水) 5校時 美術室  
 授業学級 3年E組(39名)  
 授業者 田村 淳樹

## 1 題材名・学年「自分を表す」・3年

## 2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 形や色彩、材料などの特性や効果などを理解している。 <b>技</b> 材料や用具、表現方法の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	<b>思</b> 主題を生み出し、単純化や省略、 ① 強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 <b>思</b> 美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	<b>態</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、感じとったことや考えたことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表したりしようとしている。 <b>鑑</b> 美術の造形活動の喜びを味わい、主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞に取り組もうとしている。

## 3 基礎的研究

### (1) 生徒の研究

「校内 Re デザイン」(2年)において、生徒は、構想シートを活用しながら、伝えたいことがより伝えることができるポスターを表現する学習活動を行った。生徒は、構想シートに自らの伝えたいことを整理し、主題を生み出しながら造形要素に着目して構想を練ることができた。一方で、自らの願いや友の願いをどのようにデザインのポスターで伝えるか、短絡的に思いついたことを表現する姿や、内生的な発想だけでは、十分に構想を練ることが困難である生徒の姿も見られた。これは、題材展開の中で、自らの構想を振り返る機会や、友と鑑賞し合い、意見交換の場を設けることができなかつたことが要因であると考えている。

### (2) 素材の研究

本題材では、「どのような自分」を「どのような物」で「どのように表すか」を、自分自身で考えて表す。表現方法を各自の主題に合わせて自由に選択できることが本題材のよさである。例えば、「受験を控えた3年生の自分」という自分の立場を、写実表現による自画像で、悩んでいるような自分の表情で表し、「不安な感情」を表現することができる。他にも、抽象表現で自身を抽象的な形や色で表し、多面的な自身の性格や特徴を水彩絵の具や、様々な素材を組み合わせることで立体的に表現することができる。一方で、生徒に委ねる部分が多い題材であるため、これまでに経験した鉛筆や水彩絵の具などによる着彩方法や、様々な素材を活用しながら主題を表してきた立体表現などの表現方法を想起したり、表現方法の幅を広げていったりする必要がある。そこで、本題材では構想シートを用いて、ミニ鑑賞会を行う活動を位置付けた。このように、友と意見交換することでさらに発想を広げたり、構想を十分に練ったりすることができる。

### (3) 教材化の研究

第1時、教師は様々な表現方法で自分を表している示範作品の資料を提示する。資料を鑑賞しながら「自分を表す」ために、「どのような自分」を「どのような物」で、「どのように表す」ことができるか生徒に問い掛け、題材の学習問題「表したい自分をどのように表せばよいだろうか。」を設定する。教師は、題材の序盤に、写実表現で自画像を表す小題材と、抽象表現で自分を表す小題材を設定する。生徒は、これまでの水彩絵の具や鉛筆スケッチなどの平面表現や、木を素材とした立体表現などの経験に加え、さらに表現方法の選択肢を増やしていこう。

題材後半(第7時～第14時)、教師は、写実表現や抽象表現を含めつつ、これまでの

学習の中で学んだ表現方法が確認できるよう教室に既習内容や様々な表現方法の資料を展示する。生徒は、資料を参考にしたり、これまでの経験で得た表現方法を生かしたりしながら、自らの主題の表し方を考えていこう。また、題材を進めていく中で教師は、構想シート(図1)を基に話し合う「ミニ鑑賞会」を位置付け、友から「どのような自分」を「どのような物」で「どのように表す」という構想について意見交換をする時間を設ける。生徒は、友の主題や表現方法への助言から、心豊かに構想を練り表現することができるだろう。

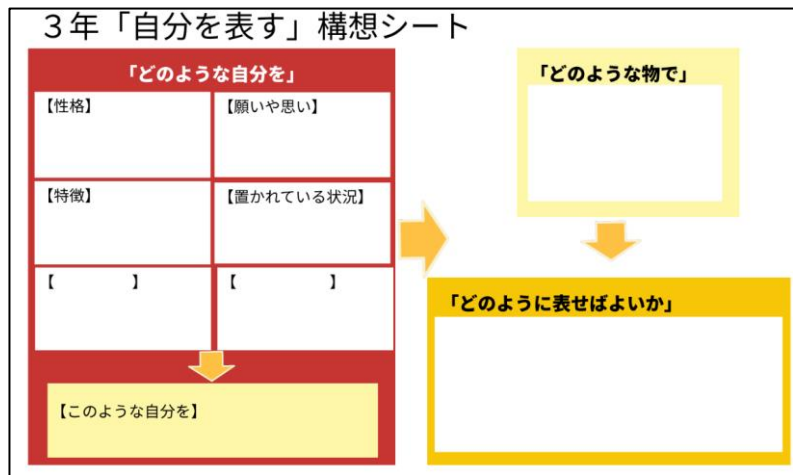


図 1

#### 4 題材展開 表したい自分の構想を練り表現する学習

全 14 時間扱い 本時は第 7 時

段階	ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	<p>◆<u>単元の学習の見通しをもつ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの既習内容や資料を提示し、題材の学習問題「表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。」を設定し、追求に入ることを確認する。</li> <li>構想シートを共有し、「どのような自分を」「どのような物」で「どのように表していくか」を構想していくことを確認する。</li> </ul>	●知	1
展開	<p>◆<u>写実表現で自分を表す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪敦の自画像を鑑賞し、写実表現について考える場を設ける。</li> <li>補助線や顔のパーツの位置の比率を目安にしながらスケッチしたり、顔のパーツの構造を理解し、鉛筆の使い方を工夫したりしながら、肌の質感や立体感を表現する方法を確認する。</li> <li>構想シートに自身の考えをまとめるように促し、「ミニ鑑賞会」を行い、写実表現における表現の可能性についてディスカッションする場を設ける。</li> </ul> <p>◆<u>抽象表現で自分を表す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「火、水、木、風」や抽象画で、「○○な自分」を表す活動を位置付ける。</li> <li>紙を用いて、「○○な自分」を、立体的に表す活動を位置付ける。</li> <li>構想シートに自身の考えをまとめ、「ミニ鑑賞会」を行い、抽象表現における表現の可能性についてディスカッションする場を設ける。</li> </ul>	●知 ●思① ●思② ●態表 ●態鑑	2 ～ 6
開	<p>◆<u>表現方法や描画材を選んで自分を表す。</u></p> <p>本時案参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分を、どのような物で、どのように表せばよいか構想する場を設ける。(本時)</li> <li>アイディアスケッチをしたり、構想シートを見返したりしながら、表したい自分をどのように表現するか、構想を練ることを確認する。</li> <li>形や色彩、構図、材料などの造形的な視点から、創造的に表す工夫を考えながら、構想してきた表したい自分を表現することを確認する。</li> <li>本制作中も「ミニ観賞会」を設け、主題と表現を見返しながら進めるよう促す。</li> </ul>	○知 技 ○思① ○態表 ○態鑑	7 ～ 13 (本時は第7時)
終末	<p>◆<u>完成した互いの作品を鑑賞して表現のよさや美しさを感じ取る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友はどのような自分を、どのように表したのか、相互観賞をする場を設ける。</li> <li>作品の形や色合い、材料、表現方法から友の表現の意図と工夫点を確認する。</li> </ul>	○思② ○態鑑	14

## 5 本時案

### 1 主眼

※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している  
 表したい自分をどのように表せばよいか考える場面で、友のアドバイスから、色や形に着目して、構想シートを更新したり、アイディアスケッチをしたりすることを通して、主題の表現方法について構想を練ることができる。

【A表現 (1) ア(ア)、[共通事項] (1) ア】

### 2 題材の学習問題：表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。

### 3 本時の位置 (全 14 時間中 第 7 時)

前時：抽象表現で自分を表す演習を行い、ミニ鑑賞会で抽象表現における表現方法について考えた。

次時：色や背景との組み合わせなど、さらに造形的な要素に着目して構想する。

### 4 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	・教師の指導 ◇助言 評価	時間
導入	1 本時の学習の見通しをもつ。	<p>題材の学習問題：表したい自分をどのように表せばよいのだろうか。</p> <p>ア これまでの演習を振り返ると、写実表現では自分の感情を表現出来そうで、抽象表現では自分の性格や特徴を何か別のものに置き換えて表現することも出来そうだ。</p> <p>イ 友のアドバイスを受けて、私には几帳面な部分があることが分かった。几帳面さをどのような色や形で表すことができるか考えていきたい。</p>	<p>・アのような生徒の振り返りを全体で共有しつつ、前時のミニ鑑賞会で、どのような気付きがあったかを問う。</p> <p>・イのように、友のアドバイスを生かしながら表現を考える生徒の反応から、学習課題を据える。</p>	5分
展開	2 構想シートやラフスケッチで、表現の方向性について考えたり、絵に表したりする。	<p>・構想シートの更新と、アイディアスケッチを各自の必要感に応じて選ぶことを伝え、柔軟に構想を進めることを確認し、活動を始めるよう指示す</p> <p>【A生：構想シートを更新し追求】                      ウ 「明るい性格」と、友のアドバイスで気付いた「几帳面な部分をもつという特徴」を表したい。                      エ 写実表現で、自身の微笑みの表情を描くことで、明るさを表すことができそうだが迷っている。                      オ 「几帳面さ」はどのように表現することができるだろうか。                      ◇ 表現方法の発想が広がらない生徒には、抽象表現で表した自分自身などを想起するよう声掛けするなど、個別支援を行う。                      カ 私は抽象表現で、カラフルな立方体で自分を表現し、多様な一面をもつ自分を表そうと思う。カラフルな面の中で、黄色を明るい自分の性格として表し、几帳面さとの両方を表現できそうだ。</p>	<p>【B生：ラフスケッチで追求】                      キ 抽象表現では、大きな炎を描き、受験生という「自分の置かれている状況」で、勉強を頑張っている様子を表した。                      ク 友は同じ炎の絵でも、力強い自分を表しているようだと言っていた。                      ケ 焚火や花火、ガスバーナーなど、様々なもの「勉強を頑張る様子」を表現できると思うので、ラフスケッチをしながら考えよう。                      ◇表現に悩んでいる生徒には、どのような自分を表すことができるか問いながら、色や形を示範しながら個別支援を行う。                      コ 炭火が静かに高温で燃えている様子が、自身のコツコツと勉強を頑張っている様子を表せそう。</p>	35分
終末	3 本時のまとめを行う。	<p>サ 友からのアドバイスを参考にしたことで、几帳面さを立方体で表すということや、配色を工夫し、暖色系の色で自身の明るい性格を表すという工夫をすることができ、自分だけでは思いつかなかった表現方法や考え方が広がった。</p> <p>シ 次回は、どのような描画材や素材で表すかということについても、表現の方向性を考えていきたい。</p>	<p>・ミニ鑑賞会を行い、互いの構想について意見交換する場を設け、サやシのような生徒の考えを全体で共有する。</p> <p>主題の表現方法について構想を練っている。                      (スケッチブック、ワークシート)</p>	10分